

栄養管理部

部長 大磯 ユタカ（教授）

安全でおいしく、治療にも役立つ食事を

「安全で満足度の高い食事サービス、治療に貢献する栄養管理」を理念に運営しています。

業務内容

入院患者の栄養スクリーニング・栄養管理計画作成を中心とした栄養管理、慢性疾患患者などへの栄養食事指導、入院患者への給食の提供を主な業務とし、さらに外来患者の栄養食事指導、啓発的集団教育を行っています。

業務体制

栄養サポートチーム（NST）に参画し、NSTの運営に関与しています。NSTラウンド・カンファレンスでは、栄養アセスメントを実施し、栄養リスクの高い患者への栄養介入を行い治療に貢献しています。



特色

患者給食の特色は、①選択メニューの実施、②患者食堂での対面盛付けによる食事の提供、③入院中に誕生日を迎えた方への誕生日食の提供（一部食種を除く）など満足度の高い食事サービスを目指しています。

業務実績

栄養食事指導は、個別指導のほか糖尿病教室などの集団指導を実施しています。糖尿病・内分泌内科病棟で実施している糖尿病教室では、「食事療法」の講義のほか、「バイキング食教室」を開催し、より実践的な患者教育を行っています。

その他の取り組み

CKD（慢性腎臓病）地域連携システム寄附講座が推進している病診連携に積極的に協力しています。月1回土曜日開催の「腎臓病集団教室」や、医師・コメディカルが一体となったCKD外来診療を実施しています。



移植連携室

室長 木内 哲也（教授）

移植医療をめぐる院内・病診連携と患者サービスの拠点

移植医療の必要な患者さんへの情報提供・相談対応と、院内関連部署・院外施設との連携調整を行う部門です。

業務体制

専任移植コーディネーター（看護師）2名が在籍し、院内関係診療科や部門、さらに地元医療機関と連携しながら、初診から移植待機・入院・手術、退院後の外来診療における身体面・心理社会面のケアを担当しています。

業務内容

上記に加え、生体ドナー（臓器提供者）の保護、提供後生涯にわたる心理社会面の相談も重要な仕事です。増加する脳死移植では、待機中の病状管理を地元と連携して行い、院内臓器提供の際には、情報の拠点となります。

業務実績

現在は、肝臓移植・小腸移植・腎臓移植が中心ですが、将来はその他の臓器の移植医療も視野に入れています。精神科医・臨床心理士、医療社会事業部などと連携した心理社会面のケアや医療費の相談も担当しています。

その他の取り組み

移植待機中に始まり、臓器提供から移植手術、その後の生涯にわたる診療における、技術面のみならず、倫理面・経済面・心理社会面のさまざまな課題に対処する最善のシステムを築くため、日々、活動しています。

